日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２７期・１２巻　　２０２２年　　３月号　　NO. 247

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すーほう

Susono Reihou Alpine Club

雪の記憶

山行ＮＯ．１９６５
２０２２．０１．２２
蓼科山

２０２２年度・０３月度例会資料　　２０２２、０３．０５

報告・当面の予定

０１月１６日（日）・・・富士山・山岳スキー　１名

１６日（日）・・・県連交流ハイク＝八高山　集合１２時白光神社

全体＝７０、講習会＝６１、東部は、三島＝４，沼津＝４、あさぎり＝１０

２２日（日）・・・蓼科山　４名

２９日（土）・・・富士山（山岳スキー）　２名

０２月０５日（土）・・・矢倉岳・北西尾根１　４名

１２日（土）・・・富士山・上塚　３名

１４日（月）・・・天城・八丁池　　２＋２名

０３月０６日（日）・・・県連総会　長田生涯学習センター　１０：００～１６：００

２．事故報告

沼津労山　　２０２１/１０/２０　１３；００　７７歳・男

沼津 ALPS 鷲頭山を登山中打撲。県連に届けなく、登山時報・２月号の事故一覧で判明した。（その後、１/２７、届け出した。なお、登山時報は下山中だが、報告は登頂中になっている）

４．寄贈会報とピックアップ

「やまなし山の会会報」　山梨・山の会　　２月号　　NO.297　　P20　　電子版

報告＝竜ヶ岳、興因寺山、干支の山・虎丸山、今倉山北東尾根、入笠山、追悼・上野巌さん、１/１０唐松岳・単独で速かった。

「あしたか」　沼津勤労者山岳会　　２月号　　NO.表記ナシ　　P10　　電子版

計画＝縞枯山・茶臼山、真富士山、石割山。報告＝玄岳、塔ヶ岳、県連交流ハイク・八高山。総会ご案内など。

「あさぎり」　あさぎり山の会　２月号　　NO.340　　A4 判　　p26　　紙製本

報告＝須崎遊歩道、八高山（県連交流ハイク）、秋葉山、白水山、硫黄岳、など

緑の中 映える白　伊豆・八丁池 全面凍結

伊豆市湯ケ島の天城山中にある八丁池が、厳寒期の冷え込みにより全面凍結している。ブナなどの自然林の中に白い氷が広がる神秘的な光景が現れている。

池は標高約1200㍍に位置し、毎冬、厚い氷に覆われる。天城自然ガイドクラブによると、今冬は昨年12月下旬に最初の全面凍結を確認したという。

同クラブの土屋光示さん(62)は「八丁池は水深が浅く、凍りやすい。登山は複数人で行い、冬の装備を整えて臨んでほしい」と話した。

（東部総局・山川侑哉）

全面凍結した八丁池＝31日午前８時40分ごろ、伊豆市湯ケ島（本社小型無線ヘリ「ホーク」から）

1/31　静岡新聞

第５５期（２０２１年度）第５回理事会　　２０２２年１月23日

於　長田生涯学習センター

伊豆HC　（竹端節次）	○	清水労山（小林幹朗）	○	山登歩（花澤秀治）	○
三島労山（森　勤）	○	静岡労山（加藤高志）	○	（鈴木みほ子）	○
裾野麗峰（欠員）		（砂子とみ江）	○	NMC（海野美春）	○
沼津労山（鈴木みどり）	○	安倍っ子（竹本幸造）	○	（森英代）	○
あさぎり（福原勝保）	○	焼津山の会（山崎勝治）	○	浜松労山（小澤賀代子）	○
ふじ山楽歩（欠員）				フレンズ（鈴木哲治）	○

１　各ブロックからの報告

東部ブロック・・ブロック交流山行　11月７日（日）　沼津アルプス３団体１６名参加

ブロック会議　　１月２１日（金）　６名参加　県連報告と来期役員確認

中部ブロック・・週日ハイク　１０月１３日（日）軽井沢、浅間隠山　雨天中止

ふれあいハイク　１０月１７日（日）雨天中止

交流クライミングと雪山ハイク計画中

伊豆ハイキングクラブからの報告

２年位前から労山に入っていても仕方がない、事務所で待っていても会員が来ない等あり。１１月下旬に総会開催。労山に残る方で負けてしまったが、労山に残る人もそうでない人も一緒にやっていこうとなった。労山会員は伊豆ハイク（労山グループ）となるかもしれないが、労山内では伊豆ハイクとして存続。４月３日総会。元に戻すような形で進めたい。代表者に任せるばかりでなく、監視が大切。

伊豆ハイキングクラブからの報告・・・上記の報告を訂正します。

１１月２９日に労山を脱退するかについて出席：５０名、委任状１４名、欠席１４名で臨時総会が行われました。脱退理由　①経費削減、②労山加盟のメリットがない。③労山は高齢化し　組織も衰退している。などで伊豆ＨＣ独自で従来通り様々な活動はできるという前提。

そこで動議が出され、労山脱退が決まっても、遭対基金継続希望の会員については伊豆ハイク労山会員の名称で継続できる処置を講ずる。というもので、採決の結果、賛成３２で可決されました。その後、脱退の採決が行われ賛成２６、反対２３、白票１で脱退することが可決されました。

伊豆ハイク労山会員グループとして、１月１６日結成総会を２９名参加で開催し、経過報告、新役員の承認、会費と遭難対策基金の集金が行われました。

伊豆ハイキングクラブは、労山継続及び脱退の会員がいますが、そのほとんどが仲良く会運営することを望んでいるとのことです。

２　各専門部からの報告

組織部・・議案書資料を作成するにあたり作った資料説明

平均年齢が５０代の会が３団体。若い会員の取り込みが問題となってくる。

教育遭対部・・安全登山講習会　１０月１０日（日）１０団体４９名参加

アンケート結果は送信済み

ベルクシュタット　１月１６日（日）１０団体６１名参加

＜各会からの意見＞参考になった、高齢化してくるので背負うのは大変

わかりやすく良かった、数年毎繰り返してもよい

交流ハイクと抱き合わせもありではないか

自力歩行できる　軽度の事故対応でもいいのでは

消防から動かさないように言われた、その時の対応

継続していけるか心配　人を出せるか

やり方や内容を考えていく必要あり

会でも資料をもとにやってほしい

自然保護部・・自然保護デー取りまとめ

追加　伊豆ハイク・・黒岳　　（裾野・・確認）

３　県連関係

安全登山講習会（１０月１０日）・・・１０団体４９名参加

南アルプス写真展　（１１月２日～７日）５８点出展（全体１５０点）累計８１９名来場者

交流ハイク（１月１６日）・・・１０団体７０名参加

ベルクシュタット学習会（１月１６日）・・１０団体６１名参加

県連総会・・・３月６日（日）９：３０受付　長田生涯学習センター

４　全国連盟関係

＊全国連盟総会・・・２月１９，２０日（府中市　ホテルコンチネンタル）

５　議案書　検討

ベルクシュタットの活動について報告を追加（曾根崎さんに依頼）

原稿集約（３０日？）→　→印刷→　→各ブロック配布（２月）→　→各会へ

来期の専門部担当・・組織（中部）教育遭難（西部）自然保護（東部）会計（中部）

６　連絡など

南相馬市から感謝状が届いた

南アルプス高山植物ボランティアネットワークの報告

バレンタイン・チョコ

切り抜き帳

静岡新聞から転載

那須雪崩で損賠提訴

遺族、県側に3億8000万円

栃木県那須町で2017年3月、登山講習中の県立大田原高の山岳部員ら8人が雪崩に巻き込まれ死亡した事故で、一部の遺族が2日、県や引率教諭などに約3億8千万円の損害賠償を求めて宇都宮地裁に提訴した。

提訴したのは、亡くなった生徒4人と教諭1人の遺族。訴状によると、事故があった17年3月27日は約30㌢の積雪があるなど、雪崩の危険性が増していたのに講習会責任者の教諭と引率教諭2人の計3人が、気象情報の確認をしないまま講習会を中止しなかったため、生徒らが雪崩に巻き込まれたとしている。

遺族らは雪崩を予想し、事故を避けることができたとして「明らかな人災だ」と主張、講習会を主催した県高等学校体育連盟や県にも賠償責任があるとしている。

原告の1人で高校1年だった息子の公輝さん＝当時(16)＝を亡くした奥勝さんは記者会見で「このまま和解してしまうと、自然災害で仕方のない事故だったと間違った教訓が後世に伝わってしまう」と話した。栃木県の福田富一知事は「訴状が届き次第、確認の上、真摯（しんし）に対応してまいります」とコメントした。

一部の遺族は20年3月、事故の責任を認めた上で真摯な謝罪と損害賠償をするよう県高体連などに求める民事調停を申し立てたが、22年1月、責任の所在などについて意見が折り合わず、不成立となった。

事故は17年3月27日、栃木県那須町の那須温泉ファミリースキー場周辺の国有林で発生。県高体連主催の「春山安全登山講習会」に参加した高校生7人と教員1人が亡くなり、40人がけがを負った。

那須雪崩遺族 提訴へ

教諭責任巡り調停不成立

栃木県那須町で2017年3月、登山講習中の県立大田原高の山岳部員ら8人が雪崩に巻き込まれ死亡した事故で、遺族らが県などに対し、事故の責任を認めて謝罪することなどを求めた調停は24日、宇都宮簡裁で不成立となった。遺族側の代理人弁護士らが明らかにした。一部遺族は宇都宮地裁に提訴することを検討している。

調停で遺族側は、講習会の責任者ら3人の教諭に重大な過失があったとして、県側が賠償金を支払い、3人に負担させることを提案したが、県側は「職務執行体制が悪かったので、3教諭だけのせいではない」などと主張し、合意には至らなかった。

遺族らは20年3月、県教育委員会や県高等学校体育連盟などに対し事故の責任を認めて真摯（しんし）な謝罪と相当額の損害賠償をするよう調停を申し立てた。話し合いの場で責任の所在を明確にすることが目的だったが、県側は賠償責任を認める一方、責任の具体的な内容や所在については回答していない。

高校1年だった息子の公輝さん＝当時(16)＝を亡くした奥勝さんは「残念に思うが、これからは民事裁判を通して、この事故は自然災害ではなく人災であったということを明らかにしていきたい」と話した。

栃木県那須町で2017年3月、登山講習中の県立大田原高の山岳部員ら8人が雪崩に巻き込まれ死亡した事故で、遺族らが県などに対し、事故の責任を認めて謝罪することなどを求めた調停は24日、宇都宮簡裁で不成立となった。遺族側の代理人弁護士らが明らかにした。一部遺族は宇都宮地裁に提訴することを検討している。

調停で遺族側は、講習会の責任者ら3人の教諭に重大な過失があったとして、県側が賠償金を支払い、3人に負担させることを提案したが、県側は「職務執行体制が悪かったので、3教諭だけのせいではない」などと主張し、合意には至らなかった。

遺族らは20年3月、県教育委員会や県高等学校体育連盟などに対し事故の責任を認めて真摯（しんし）な謝罪と相当額の損害賠償をするよう調停を申し立てた。話し合いの場で責任の所在を明確にすることが目的だったが、県側は賠償責任を認める一方、責任の具体的な内容や所在については回答していない。

高校1年だった息子の公輝さん＝当時(16)＝を亡くした奥勝さんは「残念に思うが、これからは民事裁判を通して、この事故は自然災害ではなく人災であったということを明らかにしていきたい」と話した。

1/25

那須の雪崩 山岳部8人死亡
引率3教諭 在宅起訴
業過致死傷罪

栃木県那須町で2017年3月に登山講習中の高校山岳部員ら40人超が雪崩に巻き込まれ、県立大田原高校山岳部員ら8人が死亡した事故で、宇都宮地検は10日、深雪歩行訓練当日の朝に雪崩発生を予想できたにもかかわらず、安全確保のための注意義務を怠ったとして業務上過失致死傷罪で、講習会の責任者で麓にある本部にいた猪瀬修一教諭(55)ら県立高教諭3人を在宅起訴した。

他の2人は死亡した生徒らの班を率いた菅又久雄教諭(53)、後続の班を引率した渡辺浩典教諭(59)。猪瀬教諭は、当時大田原高に勤務していた。事故から間もなく5年。県警が業務上過失致死傷容疑で3人を書類送検してから3年近くとなって、刑事処分が決まった。

起訴状によると、17年3月27日朝、現場付近で前夜から約30㌢の積雪などがあり、大雪注意報や雪崩注意報が出る中、3人は上部の急斜面で雪崩の危険があることが容易に予想できたのに注意義務を怠り、スキー場近くの斜面で漫然と深雪歩行訓練を実施。雪崩に巻き込まれた生徒7人と教員1人を死亡させ、5人にけがをさせたとしている。

また、歩行訓練を直接引率した菅又教諭と渡辺教諭は危険を回避するための明確な指示や、無線での情報共有をするといった注意義務を怠ったとしている。

宇都宮地検は認否を明らかにしていない。平野達也次席検事は報道陣の取材に「今後も被害者やご遺族の心情に最大限配慮しつつ、公判での立証に万全を期したい」と話した。

栃木県の福田富一知事は10日、教諭3人の在宅起訴を「県として真摯(しんし)に対応していく」とするコメントを出した。

一部の遺族は20年3月、事故の責任を認めた上で真摯な謝罪と損害賠償をするよう県高体連などに求める民事調停を申し立てたが、今年1月、責任の所在などについて折り合わず、不成立となり、今月2日に宇都宮地裁に提訴した。

2/11

御嶽山噴火訴訟 7月判決
長野地裁支部結審

長野、岐阜両県にまたがる御嶽山で死者58人、行方不明者5人を出した2014年9月27日の噴火災害で、気象庁が噴火警戒レベルの引き上げを怠ったなどとして遺族らが、国と長野県を相手に損害賠償を求めた訴訟が16日、長野地裁松本支部で結審した。判決は7月13日。

口頭弁論で原告側は「(国と県は)戦後最悪の噴火災害に真摯(しんし)に向き合う責務を負っている。歴史の評価に耐えうる判断を切に望む」と述べた。

原告側は、レベル引き上げ基準のひとつとなる「火山性地震の回数(1日50回以上)」が噴火17日前に2日連続して観測されており、噴火2日前には同じく基準のひとつである「山体膨張」を示すデータも把握していたことから、引き上げるべきだったと主張した。

国側は、地震の回数などの基準は目安であり、地震の振幅の小ささなども含めた総合的な判断の上で噴火警戒レベルを据え置いたなどと反論している。

夫保男さん=当時(54)=を亡くした長野県東御市の伊藤ひろ美さん(60)は閉廷後「遺族らが火山防災活動を推進する上で力となり、火山研究者にとっても希望を持てるような判決を求めている」と述べた。

2/17

山　行　名	県連交流ハイク	報告者	福原みさよ
山名・標高	八高山（832m）		
日　　程	2022年　1月16日(日)　晴れ		
メンバー	CL福原勝保　松井高行　斉藤富夫　村上恵里　渡邉良子　池田千佳 小林芳美　築地亜紀子　下村拓　福原みさよ　　計１０名 （県全体の参加者は７０名）		
コース	富士宮市役所7：00＝＝黒俣登山口8：30～50・・・川近神社・・・596m峰9：55・・・バランダ10：50・・・八高山11：00～11：55（昼食）・・白光神社12：00～13：00（交流・講習）・・・分岐13：38・・・三号橋13：55・・・黒俣登山口14：20～40＝＝富士宮市役所16：00		

３年前の会山行では福用駅から登って家山駅へ下りた。今回は山の反対の掛川側から周回した。

登山口の黒俣には他の会の人達も三々五々集まってきた。挨拶を交わし会ごとに出発。歩き出す前に地図で現在地を確認し、コンパスを合わせた。車道を歩くこと数分で神社手前から山道に入った。入口に八高山へと案内する標識が立っていた。今回登りに使うこのルートは地形図に徒歩道は載っていない。山頂まで尾根沿いに歩いて行く。この後も要所要所に案内板があってわかりやすかった。

まず、491.1mの三角点をめざした。道から少し外れてはいたがすぐにわかった。四等三角点。「日当山」の山名板があった。でも、木に囲まれていて日は当たらない場所。次の596mピークには小さな祠があった。次のピークには「小天狗の峰」の手書きの看板。そして、812.8mの三角点。この三角点は前回来た時に確認したが、茂みをかき分けて探した記憶がある。そのつもりで探すとすぐに見つけることができた。やはり四等三角点だった。少し登ると分岐に出て、ここが「天狗の座敷」。八高山の山頂は目と鼻の先だ。

狭い山頂には県連の仲間がすでに何人か到着していた。少し霞んでいたが富士山が見えた。ここには一等三角点があった。さすがに大きい。山頂は日も当たり展望もいいが、続々と登ってくるので、私たちは少し下った場所に移動してお昼にした。頃合いを見て白光神社に移動した。寒いのでしっかり着込んで

防寒対策をとった。まずは交流集会。県連理事長の挨拶のあと、参加した各会が順番に会の紹介をした。続いて、県連教育遭対部ベルクシュタット委員会の登山技術学習会が始まった。テーマは「ハイキング中のセルフレスキュー」。まず、事故発生から救出に至るまでのセルフレスキューの流れの説明があった。次に実技。傷病者を安全な場所に移動させる方法やザックを使って搬送するやり方などを教えてもらった。コロナ禍なので見学のみ。昨年、長者ヶ岳で会の救急搬送訓練でやった内容とほぼ同じだったが、ザックを使っての搬送の時に雨具の上着を使うやり方は参考になった。また、頭で知っていても実際にはできないことがある。訓練を繰り返すことでいざという時に体が動くと思う。約１時間の交流集会と学習会が終了し、それぞれの会ごとに下山を開始した。

白光神社での集会

ザックを逆さにして背負う

ザックをつなげて搬送

私たちは周回するので登りとは違う方向へ進んだ。分岐で、進む方向を南から西に変えて林道を横切った。ポイントではコンパスで向きを確認したり地形図で現在地確認を行った。車道に出て少し進んだ場所にある363mの三角点をチェック。四等三角点。ここから登山口までは車道を歩くこと約２０分くらいだった。

今回の県連交流集会はいつもの各会の紹介だけでなくベルクの学習会もあった。コロナ禍でなければみんなで実技もできたと思う。今後も、他の会の方と実際に交流できる内容を企画して欲しいと思った

あさぎり山の会会報・２月号から転載させていただきました。

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　後藤
山行 NO.　1965	
日　時	2022 年 01 月 22 日（土）無風・快晴
山　域	ハッ・蓼科山（2531m）
コース	長泉 6:00 ースズラン峠発 9:27 ー標高 2110m 標識 10:38 ー森林限界 11:51 ー山頂 12:07 ー森林限界下（昼食）12:26～42～スズラン峠 14:10 ー「小斎の湯」ー「そばきり吉成（きっせい)」ー長泉 18:30（反省会・三楽）
標高差	上り・下り　スズラン峠約 1720m～蓼科山 2531m＝約 811m
藪漕度	なし
難易度	非常に困難　困難　やや困難　レ普通　やや易しい　易しい
アベックだらけの山だった	
参加者 ど～が～	後藤、井上、勝又、加藤＝4 名 http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-5.mp4

厳冬期の蓼科山は、２０１４年以来。今年は雪が多そうなので楽しみ。蓼科山は、標高差が少なく、比較的短時間で上れるので、長泉６：００発とユックリだった。

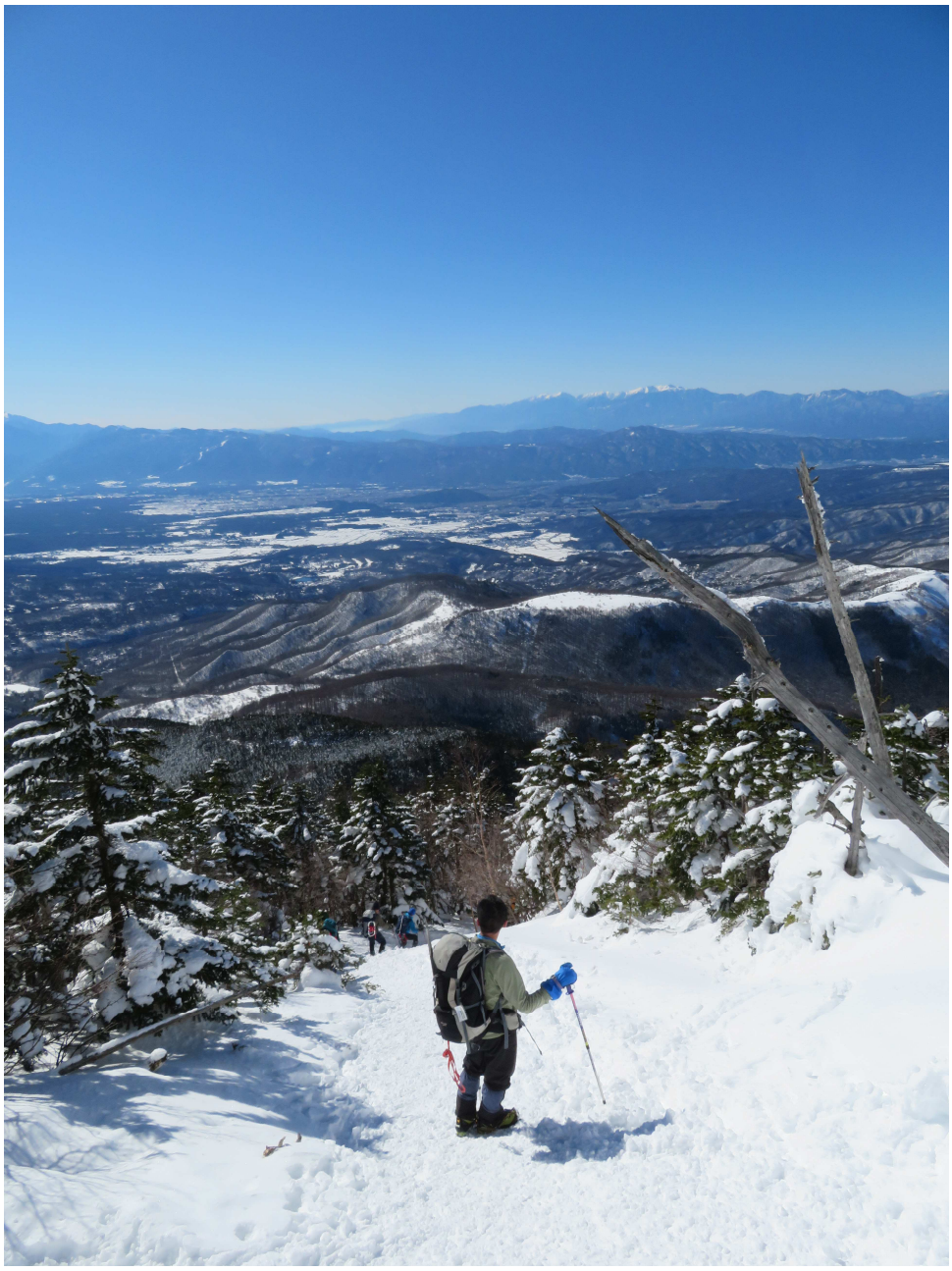
ただ、遅い分、問題はあった。登山口のスズラン峠の駐車場が狭いのだ。案の定、峠に着いたら、峠下の下の駐車場も既に満杯。数にして５～６０台だろうか。

路上駐車

結局、峠の道路駐車の最後尾に置いた。一応、ここは駐車禁止の看板はない。年末の権現岳と違い、完璧に圧雪された「高速道路」を上る。天気は、このところの低温でなく、無風・快晴。梢に見事な蒼穹が広がる。早くも大汗を掻く。

登山者は、車の数に比例して多かった。ただ、何故か殆どが「アベック登山」で、若い男女が多い。昔では、考えられなかったが、これも世相かコロナ現象か。冬の蓼科山は初心者でも上れる山なので、一見、ビギナーっぽい方が多い。装備も最新のピカピカである。金もある。

スズラン峠からの蓼科山登山道は、ほぼ一直線に上る急道。一気に８００ｍ上るので、キツイはキツイが登山効率は良い。一時間半後、標高約２２００ｍで展望が広がる。左に南ＡＬＰＳ、南八ッ、右は御嶽山、北ＡＬＰＳ、などなど。



人物・井上

若い井上とガンガン上る。勝又と加藤姉御はややゆっくりペース。姉御は、この所のオーバー・ペースで腰が痛いという。勝又は仕事疲れか。森林限界でも風が無かった。冬の蓼科は風の山だ。風が無いのは珍しい。

残りはあと１００ｍ程。ここまで若い衆を１５名程抜かした。最近は、抜かれることが多いが、抜くのは珍しい。ま、初心者的な方が多いからか。しかし、この人たちの荷物の少なさには驚く。まず、ピッケルは殆ど持っていない。我々のように、医薬品・ツエルト・ザイルなどの安全登山装

備はないだろう。先週も悪天候の天狗岳で高齢者パーティーが遭難し、年配女性が亡くなった。好条件の高山は全く問題ないが、ひとたび山が荒れれば、人間は簡単にやられる。美味しい山ばかり上っていると危機感が希薄になる。

露岩帯を抜けて頂稜部に達した。この頃になると下山する方が多い。時間は、そろそろ１２時になろうとしていた。山頂直下でヤッケを着た。

人物・井上

直下から２～３分で山頂。小さな祠と山頂標識。標識は外れて転がっていた。展望は素晴らしい。下部は風がなかったが、さすがに山頂はあった。

温かければ昼食と思ったが、長いは無用、井上の写真を撮ってすぐ下る。山の風は全くいただけない。下ってすぐ、姉御が上って来た。途中で車のカギを渡したので、てっきり下山したと思ったが頑張って来た。

「山頂は？」と聞けば、何回も来ているので、不要というので下山。すぐその下に勝又もいた。勝又も山頂は不要。四名で下山。この場合、待つことも可能だが、３０分は待つ。

風がある雪山・冬山で３０分待たされるのは辛い。止まると５分でも厳しい。この場合、二人が山頂に行きたいと希望すれば、若い井上が付き添って上る。２月で後期高齢者の私は、風のない下で待機が理想。

しかし、二人とも冬の蓼科は上っているので、よしとした。岩場から樹林帯に入る。風が無く温

かい。下から先ほど抜いた方々が、ゾロゾロ上って来る。山頂直下のこの辺りが、一番厳しい上り。
　樹林帯で昼食。今回も腹が減った。ビア・サンドイッチ・ラーメンで腹を満たす。ただ、今回はビアが何となく合わなくスッキリしなかった。上りで飛ばし過ぎたか。
　食事中、お揃いのシャツを着た「イノウエさん」が上って来た。聞けば、ご夫婦という。愛知から来たという。奥様が大分、辛そうだった。会の井上は岐阜出身。向うは「イノウエ」が多いのかねと盛り上がった。

昼食

イノウエご夫妻

やっちゃいました！！

ちなみに過去の登山時間を調べた。
２０１２年２月・・・３時間３０分（天気悪く初心者が一緒だった）
２０１４年１月・・・２時間４０分（好天・４名）
２０１７年１月・・・悪天候で森林限界まで
２０２２年１月・・・２時間３０分（好天・４名）

　こうしてみると、いつもながら、年齢を重ねても条件が良ければ案外、時間は関係ないようだ。

最も、蓼科山は短い。３時間以上の山になれば状況は変わる。

下山は雪が多くてルンルン。夏はゴロタ石が多くて参ってしまう。ただ、下山は、上りで抜いた若い衆に抜かされる。若い衆は荷物が少ないこともあるが、下山は軽い荷物が楽だ。途中でラッセル遊びをしたり、雪穴にハマったりしたが無事下山。既に車は少なかった。

蓼科温泉「小斎の湯」」（７００－）で温まり、茅野「そばきり・吉成（きっせい）」でソバを食べて帰静した。この辺りのソバ屋は、コロナの影響か、開店時間が１７：００～が多く、探すに苦労した。

雪山イイ。楽しい。気持ち良い。今回もイイ山でした。

緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
夢科山
H=２５３０．７m
展望良い
急な一本上り
森林限界
少し下る
山頂見える
急上り
S・G
登山口
H≒１７２０m
夢科山荘 (4月下旬～11月上旬
夢科山頂ヒュッテ (4月下旬～11月初(要予約))
夢科山, 2531 m
科麦草 2113.72 (三角)
Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMaple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014
2022/01/23 8:28:06
GARMIN

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上　　写真・後藤
山　番	NO.1966
日　時	2022 年 1 月 29 日（土）曇・強い風
山　域	富士山・二ッ塚（1929m・山岳スキー）
コース	長泉 7:00-御殿場口洞門駐車場スタート 8:00-二ツ塚上塚 10:20-スキー滑降（300m）-昼食 10:50～11:00-スキー滑降と歩行-駐車場ゴール 11:50-長泉着 13:00
標高差	上り・下り　洞門 1285m～上塚 1929m＝644m
藪漕度	なし
難易度	非常に困難　困難　やや困難　レ普通　やや易しい　易しい
ちょっと富士山でスキーをやってきました	
参加者	後藤、井上＝２名
ど～が～	http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-9.mp4

天気予報は曇り、午後から晴れ。前回から 2 週間ぶりの富士山での山スキー。ハイペースだ。前回は初めてブラックダイヤモンドのスキー板を使い、うまく滑ることができたが、あとで後藤さんの撮影した動画を見るとターンはうまくできていたが、スピードが遅くカッコ良くなかった。今回はスピードを出してカッコいい動画を残したい。

車から富士山を見るとどうも、雪のない所が多いようだ。このところ地上でも雨がなく、2 週間前の雪は溶けて少ないかもしれないと心配した。

洞門に着くといつものように関東からの車が 6 台ほど停まっており、今回も少し先の空き地に駐車した。洞門の駐車場には長野県ナンバーの白の軽トラックがあった。先週、２２日に塩尻市から来た方が行方不明らしく、その人の車かもしれない。前後のライト、荷台のあおり板 3 枚、スペアタイヤがなくなっていた。心無い何者かが売れそうな部品を取っていったのではないだろうか。だとしたら、酷いことをするものだ。

遭難者車両？？

森林帯を歩き始めると、頭上の木の枝にザックに付けたスキー板がぶつかり、そのたびに腰をかがめたりよけたりして歩く。樹林帯を抜けると雪は少なく、黒い地面が目立つ。少しは新雪が降ったように見られる。

雪が連続するようになるとアイゼンを着けた。雪の表面に赤い液体が落ちて凍ったようなものが見えた。もしや血？と思ったがそんなことはないだろうと話題にしなかった。

ゆっくり登っていると、クロスカントリー（クロカン）の人が、スキーを付けて走っているようなスピードで駆け上がっていった。やがて、その人は滑り下りてきて、また、私たちを抜かして登っていくのだった。

クロカン・レーサー

前方に大勢の人が見えた。遭難者の捜索隊かと思ったが、こんな場所に遭難者がいればすでに見つかっているだろうから違うだろうと話した。

曇り空。時々雲の隙間から富士山の頂上や宝永火口が見える。風が吹き、氷の粒がスキーブーツにぶつかりパチパチと音を立てていた。地表を雪が舞い、左から右へ流れていく。上塚と下塚のコルまで上がり、そこから左に巻きながら上塚の頂上を目指した。さらに風が強くなった。あっ、右足のアイゼンが外れた。調整がまずかったようだ。アイスバーンでなくてよかった。滑り落ちるところだった。

アイゼンの再調整をして取り付けている間に、後藤さんが先に登頂して待っていてくれた。風が

強くホワイトアウトになりかけていた。スキーを装着している間に晴れ間が出た。晴れている間に下りようということになったが、私はストックの長さ調整に手間取ってしまった。後で聞くと、調

厳しい山だった

整内蔵型のストックは内部で凍り、雪山には向いてないそうだ。緩めることもできず、伸ばしても締まらないのですぐに縮んでしまう。ここでもまた先に滑り降りた後藤さんを待たせてしまった。
　今日は、2 週間前よりカッコよく滑りたかったが、うまくいかない。雪質があまりよくないらしい。何度もバランスを崩し、一度こけた。3 週間前の初登山で倒木の枝で怪我をした右すねはまだ

治っておらずスキーブーツに当たるので痛い。ここに力が入らないとスキーをうまくコントロール出来ない。

登りで見た大勢の人は下塚の北斜面で雪上訓練をしているようだ。その横を滑り降りる。ここでもカッコよく通り過ぎたかったが、バランスを崩して調子悪い。

下塚の下あたりまで滑って昼食。下塚の下の樹林帯にも 3,4 人いた。今回、カップヌードルをお湯で戻す時、雪の上に置いたらぬるくておいしくなかった。失敗。その間も、クロカンの人は往復する。

今日は強風なので 1 本だけにしようと、下山滑降開始。また、クロカンの人が登ってきたので話を聞いた。横浜からきたオノさん。ヨーロッパのオートルートのレースに出場したこともある。横浜から一番近い練習場がここ。

この日は下塚の分岐までを 5 往復し累計 2200m 登って滑ったので十分（半日で 2200m も登れるのか？すごい）。スキー板はエッジありでシールをつけていて、片足が 700g。持たせてくれたが信じられないくらい軽い。アルペンスキーと同じくらいの 10 万円弱とのこと。スキーブーツはカーボン製で定価が 30 万円。足首の可動範囲が広く歩きやすい。

我々のアルペンスキー用ブーツなんて動いているのかもわからないくらいなのに。重さは 600g。スキー板とブーツ合わせて片足 1300g。私のスキー板は片足 2.7kg、ブーツは 1.6kg、合わせて 4.3kg。なんと 3.5 倍。ブーツだけでもオノさんの板を付けた片足より重い。私たちが 1 往復する間に 5 往復できるのも道具しだいか。体力も相当だけど。顔を見ると唇に傷があり切ったようだ。登りの初めでみた、雪の上の赤いのは、オノさんの血だったのかもしれない。こけたのかな。

オノさんと別れ、雪が続かななくなるぎりぎりの所まで滑り、板を外して歩いて下山。駐車場近くではソリ遊びをする何組かの親子がいた。そしてまたもやオノさんと再会。板とブーツをかつぎ、運動靴で走って降りてきた。スキーブーツは高額なので外して下りてきたとのこと。

11:50 分、駐車場着。12 時には駐車場をでて、13 時に長泉に到着。半日で富士山スキーをして帰ってこれるなんて贅沢だ。ちょっと富士山でスキーをやって来ました。

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・勝又　　写真　後藤
山行 NO.　1967	
日　時	2022 年 02 月 05 日（土）無風・晴れ
山　域	箱根・矢倉岳（860m）北西尾根・１～県境尾根
コース	下土狩駅 6:07-谷峨駅発 7:02-北西尾根・１取り付き 7:33-標高点 699m8:44-三角点・鷹落場 9:09-清水越え 9:41-矢倉岳 9:59～10:29-県境尾根 11:25-三角点・大沢（633.5m）-ゴルフ場上-堰堤のある沢 12:41-東名・下谷集落-駿河小山駅 13:30
標高差	上り　谷峨駅約 113m～矢倉岳 870m＝約 757m 下り　矢倉岳 870m～駿河小山駅約 250m＝約 620m
藪漕度	県境尾根・三角点下標高約 550mから堰堤のある沢まで酷い藪
難易度	非常に困難　困難　レやや困難　普通　やや易しい　易しい
県境尾根、三角点までは快適だった	
参加者	後藤、井上、勝又、合谷＝４名

今回の山行は、足柄山地の矢倉岳（８７０ｍ）。谷峨からのバリエーションルートから登る山行で、いつもと違い男性４名だけの山行になった。

下土狩駅６時７分の始発に乗り谷峨駅に６時５２分着。始発の御殿場線に乗るのは久しぶりだ。

谷峨駅を７時に出発。畑地区を目指すが、上部に採石場があるのか朝からダンプの通行が多い。東名の高架の下を抜け畑地区の左手にあるお茶畑の脇から登り始めるがいつもの通りいきなり急登。植林地の杉林を直登するが途中から作業のために作られた杣道をジグザグに登り楽になるが杉林の中は眺望はないうえに暗く面白味がない。途中、少し杉林が途切れるがすぐまた始まり、７５０ｍ付近でやっと植林帯が終わり左右の視界が開け右手には富士山が木々の間から一望できホットする。

御殿場線

谷峨駅

三角点（８１９ｍ）のある地点（鷹落場と表示があった）までいったん登り山伏平を目指す。山伏平の分岐から矢倉岳を目指すが矢倉岳の直下は道が深く削られ歩きにくくおまけにやたら段差

自然林

鷹落場

鷹落場・三角点

清水越え

のある階段が続き山頂直前にしてかなり疲れてしまう。

９時５５分、山頂着。予定よりも３０分程早く着いてしまった。いつもの様に持参のお酒を飲みながらかなり早い昼食をとる。天気は快晴、ほぼ無風。眺望は最高で、少し雲がかかってはいるが富士山も良く見える。男ばかりなので食事も早く終わってしまい記念写真を撮って１０時３０分山頂を発ち駿河小山の駅を目指す。

山伏平の分岐から県境の稜線にそって駿河小山に向かって下る。途中、足柄峠に向かう道との分岐に向かう上側の道を行かなければならないところを下側の道を行ってしまい上側に進路変更し分岐から尾根沿いのとても歩き易い道を下るが、６３３ｍの三角点のある場所で地図上から県境のラインはあるが登山道のラインがなくなってしまう。そこからしばらく下るとクマザサの藪に入ってしまい道がはっきりしなくなってしまいなんとか下れそうなルートを探しながら進むが、細い尾根沿いの急で危険な場所を何とか無事に下の沢のところまで下ることができホットとした。どうやら途中で本来、下のゴルフ場のふちに沿って伸びている尾根沿いにいかなければならない所を、左側の尾根に向かってしまったようだ。

何とか最近にない危険なルートを下り一般道に何とかでることができ駿河小山の駅に向かい１時４３分駅に着くが次の電車まで１時間近く時間があるため駅前の観光案内所を兼ねた町の駅にてビールで買い時間をつぶし帰路に就く。いつもの様に下土狩駅横の満貫で反省会を兼ねたお疲れ

様会を開き解散となる。本日も一日、お疲れさまでした。（以上・勝又）

矢倉岳山頂

その他の記述（後藤）

１．矢倉岳北面バリエーションは、１．北西尾根・１（標高点６９９ｍ経由）、２．北西尾根・２（鳥手山経由）、３．北尾根（鳥手山トンネル北、旧Ｒ２４６の取り付きから鳥手山経由）と三本開拓した。今回は、北西尾根・１ルート。

２．当初、地図読みで合谷にトップを託す。が、谷峨駅から左右どちらに向かうか分からない。前日、私が登山ルートの詳細地図は送ってある。ただ、全体の概念が頭に入っていないので、この結果になる。山は、案外「下道」が難しい。

３．標高点６９９ｍまで人工林。ビアの空き缶が多かった。

４．静岡・神奈川県境尾根は、調べてみたら、１９８６年８月発刊の「静岡県勤労者山岳連盟・結成２０周年記念誌」の「県境の山を歩く」で、１９８５年７月２８日、私が歩いていた。しかし、当時は、「・・・県境上に道は無かった。背丈以上のカヤトと雑木で酷い藪が続いている。それでも我慢して前進するも道はなかった・・・」の記録があった。結局、一人だったので、少し手前の「足柄古道」に戻り、駿河小山に下った。いずれにしても、ここはリベンジで再調査したい。

５．駿河小山駅前の「町の駅」は、２０２０年１月４日、初山行時、寄った。当時は「ポッポ駅前屋」だった。店主の奥様？の山本さんが話好き。若いころは、盛んに北アルプスに上ったとい

う。また、例の小山町周辺の「キレイな絵看板」の製作者・故岩田澗泉（いわた・たにいずみ）さんは、国語の教師で恩師だったという。いろいろ、あったようだが、すごくイイ方だったとのこと。

６．帰路、御殿場駅で電車待ち時間が長かったので、井上クンのビアをやってしまった。（ ´艸｀）

矢倉岳

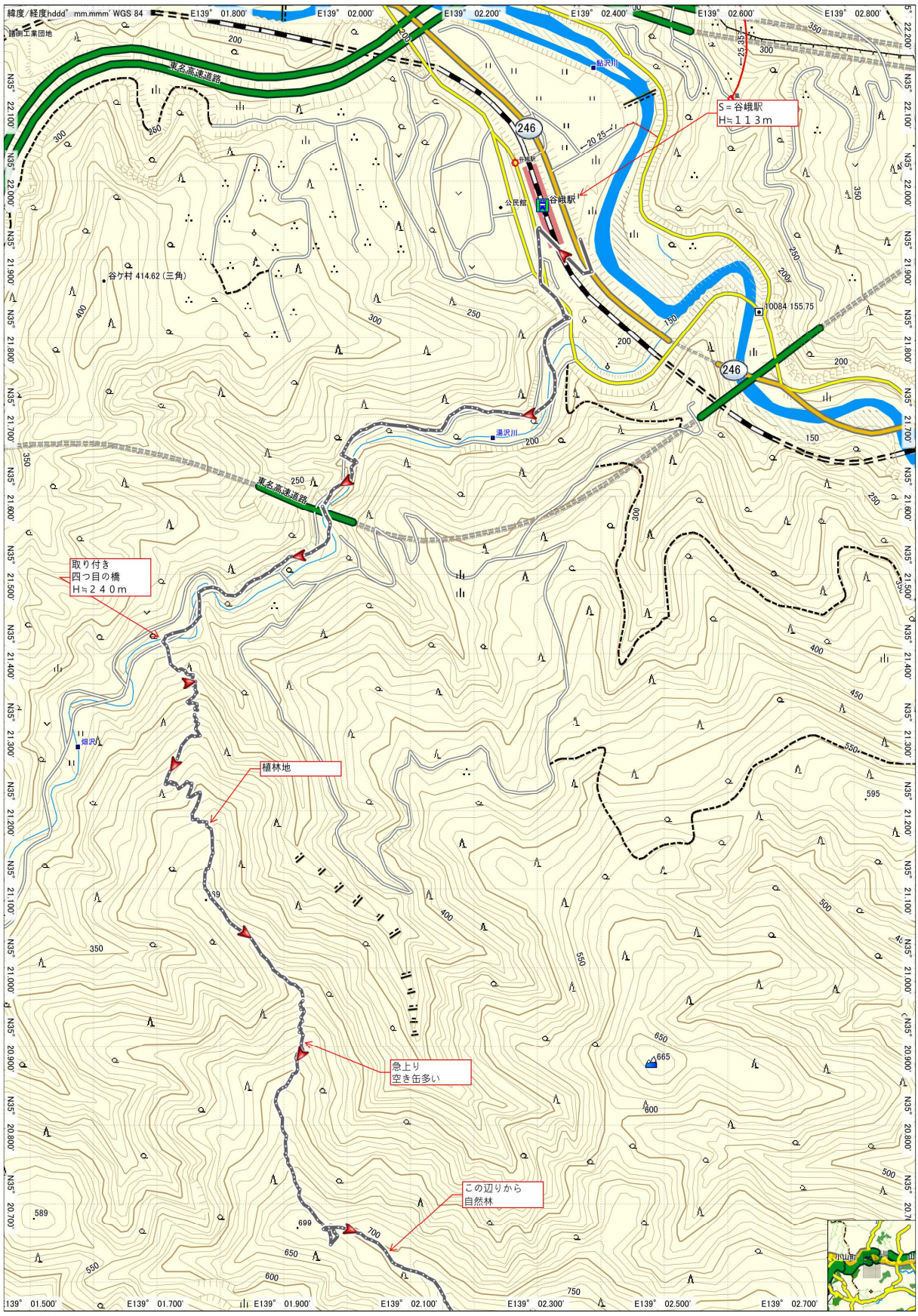
雲がイイ

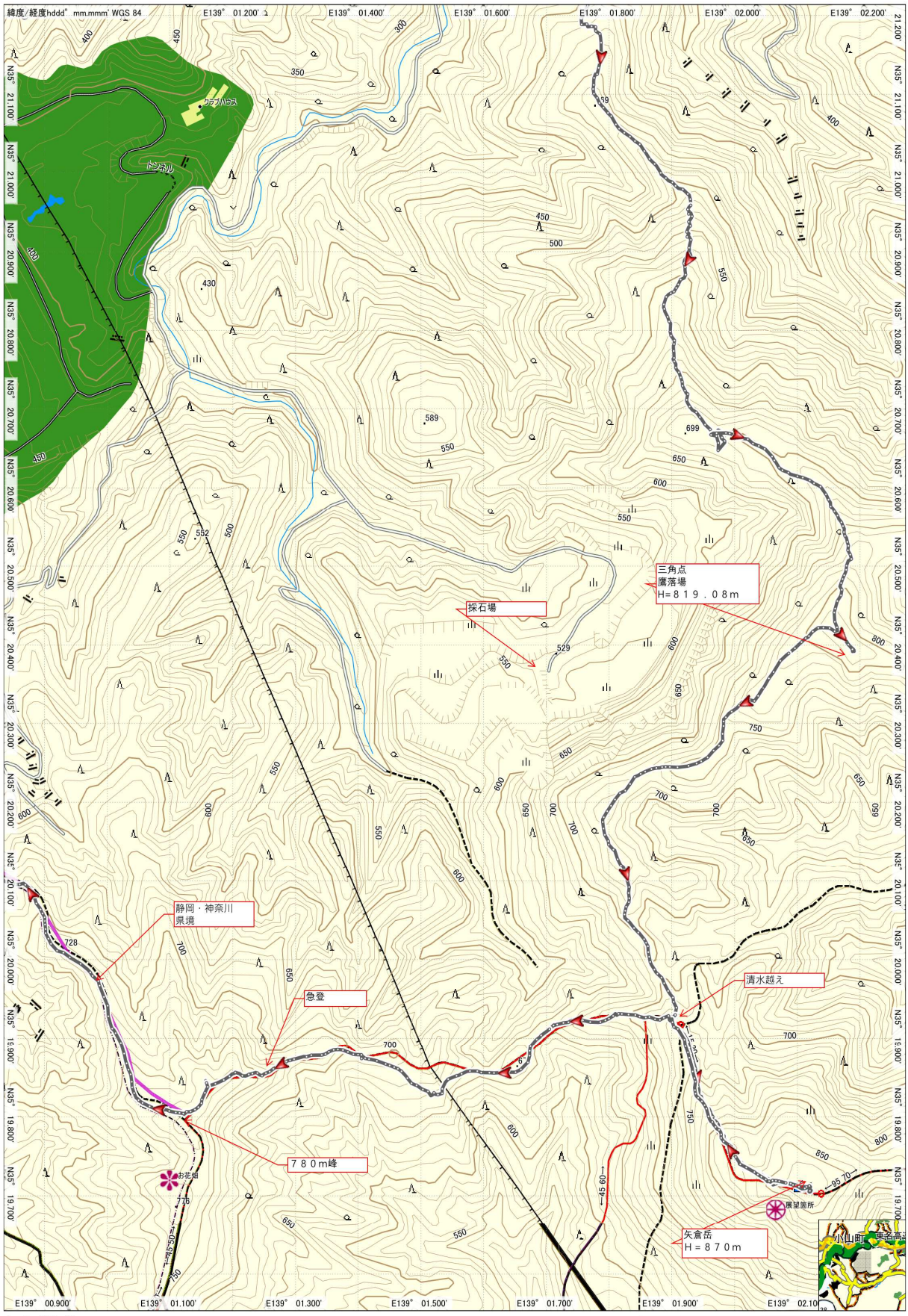
県境尾根・三角点「大沢」

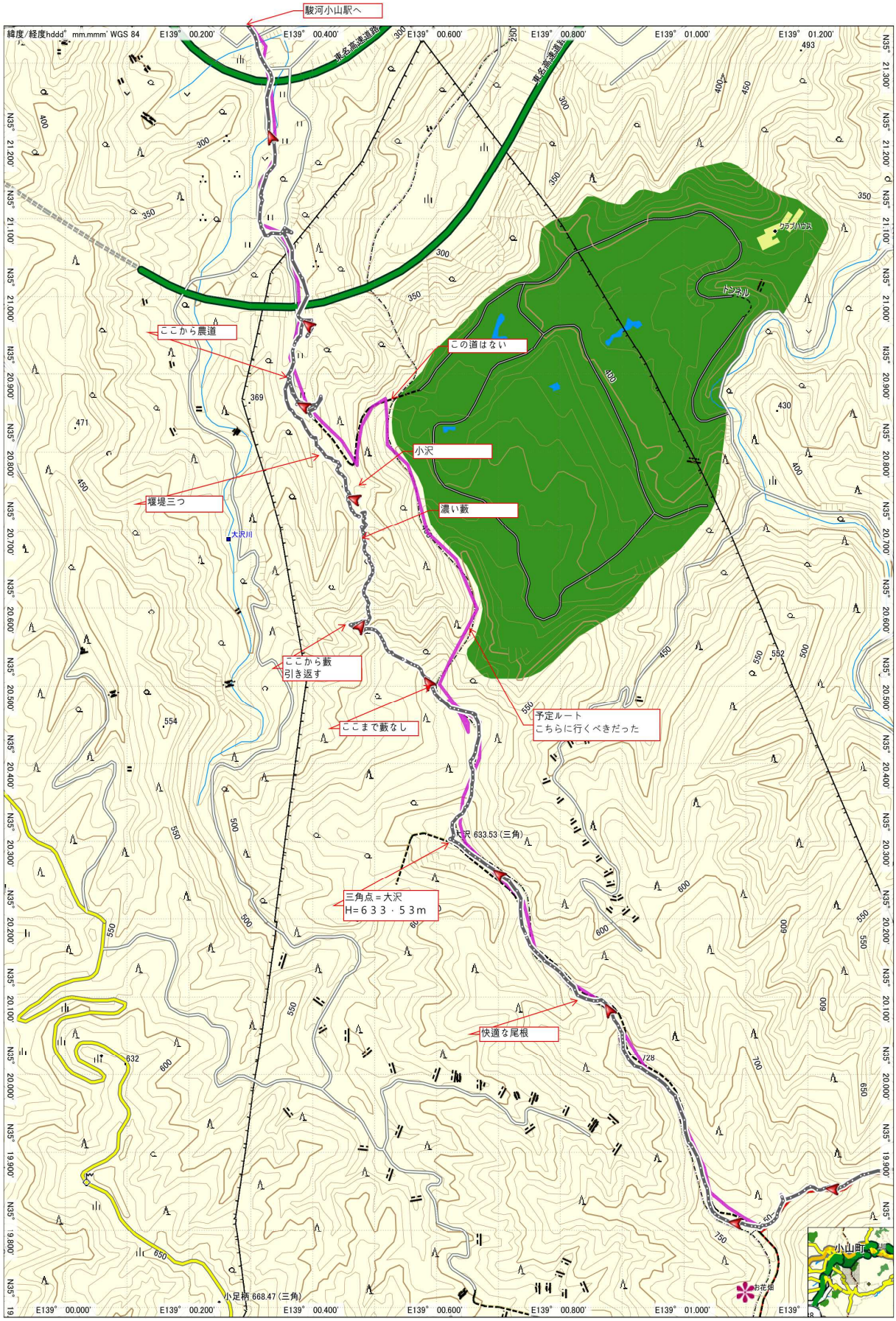
尾根末端

駿河小山駅前「町の駅」右・山本さん

故岩田さんの遺作


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
諸岡工業団地
東名高速道路
鮎沢川
S＝谷峨駅
H≒１１３ｍ
谷峨駅
公民館
谷ケ村 414.62 (三角)
湯沢川
取り付き
四つ目の橋
H≒２４０ｍ
植林地
急上り
空き缶多い
この辺りから
自然林
Japan Topo 10M Plus V3
2022/02/06 6:35:42
GARMIN


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
クラブハウス
トンネル
三角点
鷹落場
H=８１９．０８m
採石場
静岡・神奈川
県境
急登
清水越え
７８０m峰
お花畑
展望箇所
矢倉岳
H＝８７０m
小山町
東名高速
Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014
2022/02/06 6:35:42
GARMIN


駿河小山駅へ
緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
東名高速道路
クラブハウス
トンネル
ここから農道
この道はない
小沢
堰堤三つ
濃い藪
大沢川
ここから藪
引き返す
ここまで藪なし
予定ルート
こちらに行くべきだった
大沢 633.53 (三角)
三角点＝大沢
H=６３３．５３m
快適な尾根
小足柄 668.47 (三角)
お花畑
小山町
Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMaple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014
2022/02/06 6:35:42
GARMIN

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・井上　　写真・後藤
山行ＮＯ．1969	
日　時	2022 年 2 月 12 日（土）晴れのち曇り
山　域	富士山　須山口　二ツ塚上塚 1929m
コース	長泉 6:30-須山口駐車場スタート 8:10-二ツ塚上塚にて昼食 10:49-下山開始 11:40-二合 1810m-1915m(+105m)12:45－幕岩分岐 1690m13:26－14:16 駐車場ゴール-長泉着 15:30（反省会なし）
累計標高差	上り・下り　須山口 1359m～上塚 1929m＝570m（+105m=675m）
藪漕度	上り・下り　なし
難易度	非常に困難　困難　やや困難　レ普通　やや易しい　易しい
深い雪と美しく化粧した富士山	
参加者	後藤、勝又、井上＝3 名
ど～が～	http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-7.mp4

2 月 10 日(木)に大雪が降り、御殿場に住んでいる会社の同僚は長泉の会社には出てこられなかった。今回は山スキーと思っていたら、雪中行軍だった。

富士山は、真っ白にコーティングされた。最近は雪があっても地肌が見えてマーブルチョコのようだったが、今日は完全にホワイトチョコでおおわれているようだ。別に、バレンタインデーが近いからこう思ったのではない。

ワカンジキ

御殿場口の洞門の駐車場はすでにいっぱいで、その前後の路上や隙間にもきっちり駐車している。1 月 29 日にみた長野県のナンバーの白い軽トラはなかった。遭難者が見つかったという新聞記事はないようだ。撤去されたか、例のハイエナ業者にたかられて跡形もなくなったか。

駐車できる場所を求めて須山口の方へ車を走らせる。いつも駐車していた沢の橋近くの場所は、土木工事で使われていて入れない。須走口も雪で駐車できず、その先も道路は除雪されているが道のわきに車を停めるスペースはない。しょうがないので、須山口に戻り道際の雪かきをして道路の

白線より外に駐車した。

当然、誰もまだ歩いておらず踏みあとはないのでワカンをつけてのラッセルとなる。ワカンは10年以上使っていない。ワカンの紐の付け方が良くわからず、初めは前後ろ逆につけようとしたが反対にしたら取り付けられた。

登山道は雪がわずかに周りよりくぼんでいる。道を歩いてもつまらないということで、右側の林に登り、林間を歩く。鹿の足跡があり、それに沿って進む。鹿のラッセルを使わせてもらった。といっても、しょせん鹿の小さな足のラッセルなので、足は毎度しっかりと雪に埋まり、足を引き抜く作業の連続だ。しかし、鹿と歩いているような不思議な気持になる。鹿の足跡は、あっちこっちに動き、樹木の周りをぐるりと回り、木の幹のコケを食べているようである。

しばらくすると水ケ塚からの登山道と合流し、そこからは大量の足跡があり、進むスピードが格段に速くなる。ワカンはつけていても歩きにくいわけではないので外さなかった。そのまま進み二ツ塚への分岐にでた。当初の予定では左側のコースで宝永火口、御殿庭に向かい2350m峰にいく計画だったが、そっちは誰も行ってないようで足跡がない。

すでにそこまでの雪中行軍で時間がかかっており、計画通りに行くとさらに時間がかかりそうなので、行先を変更し二ツ塚を目指すことにした。ここで後ろから二人の登山者が来て、一人は抜いていき、もう一人はそのまま後ろを歩いていた。樹林帯を越えると真っ白な富士山が現れる。地表の木は先端だけ雪から頭を出している。雪で覆われた地形はなめらかな曲線を描く。

上塚の下の分岐で昔のタレントの「なすび」によく似たひげが伸びた男が下塚の方から上がってきた。大きな荷物はテントが入っており、昨夜はテン泊だったそうだ。上高地から富士山に来たそ

素晴らしい世界

うだ。上塚にはすでに上ったので、宝永第 3 火口に行くという。スノーシューだ。四国遍路も 9 年位前にやったそうだ。なぜか四国遍路の話が盛り上がる。

上塚を見上げると 6 人が登っている。ここでは周囲 360 度全て真っ白である。空は青く、風はない。飛行機が飛んでいく。上塚に上るとき、後藤さんが先行し、私と勝又さんが登るシーンの動画を撮影した。

上塚頂上には男性一人が休憩していた。先に登っていた人たちは早々に下り、下塚にでも行ったのだろうか。まだ 11 時にもなっていないが、上塚頂上でめずらしく風がないので、ここで昼食とした。

なべ焼きうどんの準備をする。お湯を入れてコンロに火をつける時点で、なんと火がつかない。コンロが濡れたためか、燃料切れか。仕方なく、後藤さんが食べ終わってからコンロを借りることにした。後藤さんは、勝又さんの勤め先のマックスバリューでしか売っていないという 400 円の八丁味噌の鍋焼きうどん。私はウエルシアの 200 円の餅入りうどんである。勝又さんはいつものようにインスタントカップ麺。さすがに熱々はおいしい。

食べ終わるころ、テレマークスキーの男性が登ってきた。どこから？と聞くとなんと長泉。大体、関東から来る人ばかりなので、珍しい。後から奥さんが登ってきた。テレマークスキーは奥さんが先に始めたらしい。聞くと、納米里近くの藤原さん 51 歳。学年は私の一つ下。麗峰山の会を勧めたがあまり乗り気ではない。以前に山の会に入っていたがやめたそうだ。沢登りをよくやり、ピークハントには興味がなく、岩登りをやりたいそうだ。

「なすび」さん

上塚

鍋焼きうどん

藤原ご夫妻

白井さん

話は尽きないので切り上げて下山開始。下りでも動画撮影をする。撮影する後藤さんも、撮られる私たちも無言であることが求められる。あっちだ、こっちだと無言で手の指示が入る。「カット」も入らず、いつまで撮影するのかと振り向くと、とっくに終わって歩いていた。

上塚を下ったところで、革靴にアイゼンを着けている男性がいて、後藤さんを待っている間に聞くと、その人は白井源三さんといい 3 日後の火曜日に 80 歳になる記念に富士山に来たとのこと。山渓の神奈川県の山の分県登山ガイドの執筆者の一人。パタゴニアにも行ったこととのある山岳写

三辻に向かう

真家。写真集もだしているらしい。履いているゴローの靴のかかとに金具がついており、ワンタッチアイゼン用かと聞くとスキー用とのこと。ゴローの靴でスキーをするらしい。足首がフリーなので相当難しいようだ。

スキー用ブーツを履いた時になんと楽に滑ることができると思ったと。また、山に出る時の朝は起きるのが嫌で、雨が降らないかとか、行かないでよい理由を考えると言っていた。どうやらみんな朝は同じようだ。

後藤さんは常々80歳までは山に行くとおっしゃっているが、こうやって80歳で現役をやっている人と会うと、80歳はどうやら通過点になりそうな気がする。さらに、御殿場口洞門の駐車場が2月いっぱいで閉鎖するとの情報を聞いた。自分たちの遊び場に困ると言っていた。この情報が本当なら、私たちもこれから富士山でスキーをするのに困ることになる。

午後になると、いつものように雲が現れ風が吹いてくる。やがて富士山山頂はお隠れになった。午前に上塚頂上について昼食をとったのは大正解だった。

この分岐から登って来た道を下るにはまだ時間も早いので、先の「なすび」さんが作ったトレースで御殿庭方面の三辻（ミツジ）へ向かうことにした。「なすび」さんのスノーシューの足跡だけなので、アイゼンを履いただけの靴では雪に沈み込み、ラッセルに近い。

分岐から90mほど登ったころ、どうやら目的のコースから右にそれ、余分に登っていることが分かった。1915mまで登って左の林の方向に方向を変えて下り始めた。当然、全く足跡のないバージンスノーなので、完全にラッセルとなった。それでも下りなので、上りほどのしんどさはない。途

中からスキーで下った跡が見られた。スキーの跡を歩いてもスノーシューと同じで、圧雪になっていないので足がずぼずぼと沈む。雪は結構い深いので足を雪から引き抜くのは大変だ。樹林帯に入るといつもある登山道はどこか分からず、木の枝の赤テープを探して下る方向を確認する。

　そして、朝、二ツ塚に目標を変更した分岐に出た。ここからは雪は十分に踏まれていて、雪のため段差がないので夏よりお気楽に歩ける。

　駐車した場所には、他に 2 台車が停まっていた。奥の方まで雪かきをして入ってきたようだ。今回は、深い雪と美しく化粧した富士山を存分に楽しんだ。

以上

写真報告　　天城・八丁池　　2022/02/15

ど～が～　　http://susono-reihou.babyblue.jp/0000-6.mp4

全面氷結でなかった

池東の大ブナ・枝が感動的

日本勤労者山岳連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
裾野麗峰山の会（愛称・れいほう山の会）
会報「れいほう」
第２７期・１２巻　　２０２２・３月号　　NO.２４７
連絡先　静岡県駿東郡長泉町下土狩 1541-12　徳山荘
090-8956-9990　　055-986-6075
HP　　http://susono-reihou.babyblue.jp/
mail　　takanori_reihou8888@yahoo.co.jp

天城・八丁池

箱根・矢倉岳